

令和元年度第1回射水市民病院運営協議会 議事録(要旨)

日時： 令和元年5月30日(木) 午後3時30分～午後5時

場所： 射水市役所本庁舎 401会議室

議事： (1)会長及び会長職務代理者の選出 …… 委員名簿
(2)射水市民病院の現状と方向性について …… 資料
(3)平成31年度射水市民病院事業会計予算の概要 …… 資料

質疑応答

- ① 木田委員 Q 県立中央病院の病診連携の会に出席し、射水市民病院における紹介及び逆紹介の数がほぼ同じであったと把握しているが、資料で逆紹介に入っているのに対し紹介対象に入っていないのはなぜか。

当局 A 資料の件数については、再度確認する。

木田委員 紹介・逆紹介といった相互関係が意識的にみられるので、参考にしてほしい。

- ② 竹内委員 Q 歯科医院から紹介があることが意外だったので、詳細について教えてほしい。

当局 A 口腔外科への紹介もあるが、循環器の患者さんで血液をさらさらにする薬を服用している場合抜歯する際に問い合わせとしての紹介があり、そうしたケースも含まれている。

竹内委員 外部の歯科医院との連携も重要と考える。

- ③ 新中委員 Q 経営改善に当たり、様々な目標が設定されているが実現性についてお聞きする。

当局 A 入院の稼働率及び外来患者数の増加が重要であると考えており、達成可能な目標と捉えており鋭意努力する。

新中委員 Q 放射線治療に際して近隣病院を紹介されていると聞いているが、射水市民病院では治療は行えないのか。

当局 A 当院には放射線科の治療医がおらず、検査のみ行っている。また、治療においては設備等の観点でも300床以上の病院で行うのが一般的である。

- ④ 沖委員 Q 経営悪化の原因として内科医師の減少が大きく影響しているが、医師減少の原因は何か。また、平成28年度決算の純損失が約15億と突出している主な要因は何か。

当局 A 医師の減少については、前院長の退任など複数の医師の退職時期が重なり、不足した医師数を補えなかったことがある。また、純損失の主な要因として、減価償却費の増加や旧診療棟取り壊しによる資産減耗費の増加が大きく影響したものである。

- ⑤ 西島委員 Q 他の病院との差別化、射水市民病院の特色を打ち出すことが重要と考えるが、現状についてお聞きする。また、企業や団体と提携して人間ドックを受け入れてはどうか。

当局 A 当院には心臓血管センターがあり、急性や重症の心疾患の診療だけでなく、回復期への心臓大血管リハビリテーションにも積極的に取り組んでいる。また、院長の専門である乳がんや毛利副院長を中心とした整形外科などを重点的にアピールしていきたい。また、人間ドックについては診療にでている内科等の医師が検診に携わっており大変好評である。市内の企業とも連携しながら受入れを行っているが、限られた人員の中で出来る件数をこなしていることから急激な増加は困難だと考える。

西島委員 Q 医業収益における他会計負担金、医業外収益における他会計負担金及び他会計補助金、資本的収入における企業債及び他会計出資金について、主な内容は何かお聞きする。

当局 A 他会計負担金、他会計補助金及び他会計出資金は、繰入基準に基づく一般会計からの繰入金であり、内容に応じて費目が区分されているものである。企業債については、医療機器の購入や病棟改修のための借入金である。

⑥ 若林委員 Q 射水市民病院の特色を市民にアピールすることが重要と考える。ぜひ努力していただきたい。

当局 A 鋭意努力していく。

その他意見等

木田委員 市民病院と聞けば、市民の税金で運営を行っているイメージしがちだが、実際の病院経営は入院や外来の事業収益などで運営上の費用を賄っていることを市民は理解できていないと感じる。そうしたことから、決算において赤字と聞けばマイナスの印象が強く、実態や要因が理解されないでいる。赤字の大きな要因となっている医師不足においても、現在、社会全体で医師不足が深刻となっている中、容易に医師を補充できるものではないことを市民に理解していただきたい。困難な状況ではあるが、そうした中経営改善に向け努力して市民に理解を深めていく場として、この運営協議会があるものと考ええる。

宮田委員 木田委員の意見について同感であり、市民感覚での観点で市民に伝えることが重要である。病院広報誌をみても細部に工夫はみられるが、発行後もアンケートをとるなど広く市民の声に耳を傾けることが大切で、小さなことの積み上げが有効である。

当局 病院広報誌は、直近の3月発行号から表紙にイベントの写真を用いるなど市民に親しみを感じていただけるよう、市民病院のPRにつながることを意識した編集を行った。また、医師確保においても、これまでと違ったアプローチを試みているところである。各委員におかれても市民病院として新たな部分を感じていただきたく、今運営協議会を開催したものである。今後とも市民に広くPRし当院のイメージアップを図っていく。

宮田委員 行きやすい病院を考える時に、病院当局だけでなく市役所の各部署が連携することが重要である。また、医療機関だけでなく地域との連携も重要であり、どのように病院の現状や活動を地域に周知・浸透させていくかを考え、市民の関心を察知しながらPRに努めてほしい。

当局 病院運営において市民目線から物事を考えていくことが重要であり、今後とも努めていく。